



1 学習のねらい

キャッチコピーを書く手順が分かり、聞き手に訴える効果的な表現の技法を知り、使ってみようとする。

2 番組活用にあたって

調べたことやみんなに知らせたいことを、ポスターにしたり、新聞にしたりしてまとめる学習活動は、現在、多くの教科学習や総合的な学習の発表などで盛んに行われています。このような学習活動では、調べたことを効果的に伝えるために調べた内容を短い言葉で書き表すこと（「キャッチコピー」）も多く行われています。今回は、伝えたい内容をどのようにして短くしていくのか、読み手を引きつけるためにはどのような手法がつかえるのかなど、言葉の磨き方の指導に焦点をあて、効果的に読み手を引きつけるキャッチコピーの作り方を提案しています。

番組では、図書委員であるサトルの「本をかりてください」という何の工夫もないキャッチコピーにスポットをあて、この言葉を磨いていきます。番組では、

- ・みんなが気づいていないそのものよさを見つけること
- ・たくさん書くこと
- ・たくさん書くためには、具体的な相手を思い浮かべて書くこと
- ・表現手法の工夫として

「擬人法」「かけ言葉（一つの言葉に二つの意味をもたせる）」「質問の形」「会話の形」「575」などが紹介されています。

サトルのキャッチコピーがどのように磨かれていくかを見ていくことで、自分の言葉を磨く時のヒントになるはずです。

3 指導の流れ

① キャッチコピーとは、どういうものか捉えさせる。

- ・パンフレットや広告、ポスターなどを見せて、キャッチコピーを見つける。
(キャッチコピーを作った経験がある場合は、キャッチコピーを作った時にどんなことに気がつけたか、苦労したことは何かなどを話させるとよい。)



② サトルのキャッチコピーがどのように変化するか見てみよう。

1. 番組を視聴する。
2. サトルのキャッチコピーがどのように変わったかを整理する。
「本をかりてください」→「パティシエ・ポッター・信長 キミならだれになる？」
3. サトルの作ったキャッチコピーのよさを見つけよう
 - ・質問の形を使っているから、自分に言われているような気がする
 - ・具体的な人とかの名前が出てきているから、分かりやすい
 - ・言葉がかっこいい感じがする



③ キャッチコピーの作り方のポイントをつかもう

1. 自分の伝えたい内容をはっきりさせる。(自分の発表内容の特徴を自分でつかむ)
2. 内容のよさを印象づけるための言葉をたくさん書く。
3. 言葉を磨く(「擬人法」「かけことば」「問いかけ」「会話」「575」など)
4. できあがったキャッチコピーを読んで、リズムを確かめる。



④ 友達(クラス)のキャッチコピーを作ろう

1. 二人一組になる。(クラスのキャッチコピーの場合はグループ)
2. 伝えたい内容をはっきりさせ、よさを印象づけるための言葉をたくさん書く。
3. 言葉を磨く(「擬人法」「かけことば」「問いかけ」「会話」「575」など)
4. できあがったキャッチコピーを発表し合い、それぞれのよさやおもしろさを見つける。